

桑名市公立保育所

危険防止マニュアル

危険防止

園庭（固定遊具）ブランコ・滑り台・鉄棒・ジャングルジム

どんな事故がおこりやすいか？	保育者が注意すること	子どもたちに知らせておきたいこと
○ブランコ バランスを崩して落ちる 前後を通ったり、ブランコにぶつかる	どのような乗り方をしているのか 危険な使い方をしていないか、必ずそばにつき子どもから目を離さない ・漕ぎすぎしていないか ・チェーンをしっかり握っているか ・左右に揺らしていないか ・片手乗りをしていないか 等 発達を把握し使い方を見守る 動きがだんだん大きくなり、恐怖心に変わり、怖さのあまり動きが止まるのを待たずに降りようとしたり、手を離して事故になることがある	・揺らせ方によっては衝突や落下など怪我につながることを知らせる ・決められたところで順番を待つ ・ブランコの前後を走りぬけない ・止まってから乗り降りする などそのつど知らせる
○滑り台 階段を踏み外して落下する 斜面から落下する	・どのような遊び方をしているか、危険な使い方をしていないか目を離さないようにする。	・決められた滑り方をする ・すみやかに滑り、降りたらその場から移動する ・一度に大勢登らない ・立ったまま滑らない ・モノを持って滑らない ・友達を押さない ・ふざけて滑らない
○鉄棒 ○ジャングルジム 手を離して落ちる	・親指下握りを徹底させる ・5本掛け持ちはさせない ・手は離さないことを知らせる ※子どもがやりたいからやらせるのではなく年齢に応じ可能な範囲でやらせる自分の出来るところをわからせ、少しずつ挑戦させる	・物を持って登らない（縄） ・友達を押したり引っ張ったりしない

危険防止

園庭

どんな事故がおこりやすいか	保育者が注意すること	子どもたちに知らせておきたいこと
○砂場 ・砂が目に入る	・砂場の衛生面に気をつける ・玩具の安全管理をする	・絶対に目をこすらない事を知らせる ・砂を放り投げない 玩具の取扱いに注意する
○戸外玩具 縄跳び 縄が絡まり窒息する	・遊具の安全点検 ・遊具に縄をかけない ・使用場所の環境を整える ・どのような遊び方をしているか 危険な使い方をしていないか ・目を離さないようにする	・使ったら所定の場所に片付ける
乗用玩具 三輪車 転倒する	・年齢に合った玩具を使用しているか ・見守り、子ども達から目を離さない ・年齢に合わせ、砂袋を入れる	

危険防止

室内活動

どんな事故が起こりやすいか？	保育者が注意すること	子ども達に知らせておきたいこと
室内環境全般 ・転倒・転落	・死角になっている場所を確認し できるだけ死角の場所を作らない ・観葉植物などを置くなどして環境を考えていく ・乳児はくつ下を脱がせる ・床やローカがぬれていたら拭く ・窓の近くに登れる台になるようなものを置かない ・角などで打ちやすいところには、緩衝材を工夫する。	・柵、ロッカーに登らないように言葉をかけたり、考えさせていく ・室内で走り回ることがないように、声をかける ・窓から身を乗り出すと危ないことを知らせる ・靴下は滑ることを知らせ、上靴を必ず履くように伝える
・誤飲	・壊れている玩具、遊具はないか 日々、点検する ・玩具で遊ばせるときは、数を確認し 保育士とともにあそぶ ・おもちゃが散乱していることのないよう、適時片付ける	・玩具を投げたり、乱暴に扱わないよう言葉をかける ・細かい物は口、耳、鼻に入れないよう言葉をかける
・窓、ドア出入り口の開閉戸で 手指をはさむ	・出入り口や角にクッションなど指 詰め防止を工夫する	・乱暴な開閉をしないよう、また 戸やドアで遊ばないよう声をかける

危険防止

室内運動遊具

どんな事故が起こりやすいか？	保育者が注意すること	子ども達に知らせておきたいこと
捻挫、骨折、切り傷、打撲	跳び箱、巧技台 ・遊ばせるときは必ず保育士がそばにつく。始める前に身体をほぐす ・年齢にあった高さにする ・飛び降りたり登るときは必ずマットをおくか、手を添える ・跳び台に手をつく場所、つき方をしっかり教える	・ふざけて跳んだり乱暴な動きをしないように話をする ・子ども達だけで遊ぶことのないよう始めるときは保育士の声かけを聞くように伝える ・自分のできる範囲を考えて少しずつ挑戦していくように声をかける
落下、転倒	平均台 ・目を離さず、子どもの動きを把握する 不安定な子には手を添える ・渡り台が滑りやすくなっていないかささくれはできていないかなど、確認する マット ・前転をする時など、手のつき方を教える ・前転をする時は必ず頭部、首などに手を添え、危険防止に努める	・平均台の上ではふざけないことや押したり引っ張ったりしないよう知らせる ・必ず保育士が付き添っている時に遊び、子ども達だけで出して遊ばないよう知らせる

危険防止

製作活動

どんな事故が起こりやすいか？	保育者が注意すること	子ども達に知らせておきたいこと
・切り傷	テープカッター ・テープカッターは安定の良い場所に置き、床の上には置かないようにする ・子どもに移動させないようにする ハサミ ・ハサミ使用時には必ず付き添うか見守れる場所にいる	・テープカッターは床におかない、持ち歩かないことを知らせる ・ハサミを手渡す時は刃の方を向けて手渡さないよう指導する ・持って移動するときは、必ず刃の方をにぎる ・ハサミを持ち歩くことのないよう指導する
・刺傷	ホッチキス ・子どもの状況に応じて保管場所を配慮する ・使用時には必ず付き添うか、見守れる場所にいる 目打ち ・子どもの状況に応じて保管場所を配慮する ・使用時には必ず付き添う ・使用時には専用台か台紙を置いて場所を決めて使用するようにし、できれば目打ちに紐などをつけて持ち歩けないようにする 粘土へら ・先端のとがった物の使い方については危なくないように使い方を把握し見守	・針の出る場所を知らせ、その場所を握ったり、他の子に向けたりすることのないように知らせる ・針の方向を人に向けたり、立ち歩くことのないように知らせる ・ふざけて使用することのないように正しい使用方法を知らせる ・5歳児が使うもの（かなづち、くぎ目打ち、ホッチキス、針）にはまわりの子に危害を与えないように話しをする

危険防止

給食活動

どんな事故が起こりやすいか？	保育者が注意すること	子ども達に知らせておきたいこと
- 箸やフォーク、スプーンを振り回したり、他の子どもに向けてふざけ、口腔内を刺したり耳や目に刺さる - 歯ブラシをくわえたまま走ったり、ふざけて転倒したり、滑りやすくなっている流し前などで転倒し、口腔内に刺さる - 給食ワゴンの車に足を挟む - 食べ物による窒息 - アレルギーの誤食	- 食事中も目を配り子どもを見守る - 集中して食べられるよう環境を整える 机、椅子の破損、食器、お盆などの破損に気をつける - 歯を磨くときは目を離さないようにする - 洗面所周りがぬれていないか確認し、ぬれている時は拭く - ワゴンは大人が運ぶものとする - 食べている時の子どもの様子に気を配る - 名前の札などをチェックし、保育士同士が声をかけあい誤食がないよう必ず確認して配膳する	- 箸やフォーク、スプーンを振り回したり、他の子に向けてたりしない - 歯ブラシをくわえて走ったりふざけないように伝える - 水道のところまでは持って歩く

危険防止

園外散歩

*非常用袋・散歩グッズの点検(救急用品)を行い、持参する

どんな事故が起こりやすいか？	保育者が注意すること	子ども達に知らせておきたいこと
外部からの犯罪者 誘拐 変質者	【0～5歳共通】 - 行き帰り、遊んでいる最中、人数確認を必ず行う - 防犯ベルを携帯する（ベルまたは笛） - 携帯電話を持参する - 保育士間で連携をとりあう - 現地で人数確認をし、目的地では個々の動き、居場所を把握する - 死角になるような箇所を確認しておく - 出入り口付近に目を配る - 変質者が来たら笛などで知らせ集める - トイレには他の保育士にも必ず声をかけ、付き添うようにする	- 危険箇所など、年齢に応じて知らせ、意識できるようにしていく - 保育士の見える所で遊ぶように声をかける - 道路に飛び出さないよう、声をかける - トイレに行きたい時は必ず保育士に声をかけることを知らせ、一人で行かないよう伝えていく
乳母車による事故	【未満児】 - 乳母車からの転落に気をつける - 道路の段差に気をつける	足をかける子に対しては、その都度ことばをかけていく
転倒・転落	道路状況、危険箇所を察知し的確な状況判断を行っていく（溝、段差）	危険箇所を知らせる
打撲・切り傷他	- 現地に着いたら遊具点検を行い、怪我につながるようなガラスや瓶が落ちていないか点検する - 目的地での危険箇所を保育士間で確認したり声をかけあう	危険物を見つけたら、触らず、保育士に知らせる
交通事故	- 手をつないで出かける場合は、保育士が車道側を歩く - 右側通行を行う - 道路にとまっている車、自転車、バイクに注意する - 横断歩道や歩道橋を渡る (横断歩道がない所は渡らない) - 横断する際は列をつめる	- さわらないよう注意する - 道路の渡り方を知らせる (手をあげ、左右確認する)

危険防止

プール遊び

どんな事故が起こりやすいか？	保育者が注意すること	子ども達に知らせておきたいこと
溺れる 滑って転倒する	【0～5歳共通】 ・水を張ったプールのそばに子どもがいる時目を離さないよう必ずそばにつく（洗面器の中、手首の高さの水で溺れる） ・水を飲まないよう、注意する ・乳児は口に入れないよう注意する ・危険な行為については、そのつど注意し、指導する ・プール遊び終了後、すみやかに排水しておく ・プールの周りは滑りやすいので、マットを敷いたりして、工夫して環境を設定する ・プールに入る時は必ず子どもだけで入らせない	・水は飲まない ・危険な行為を知らせ、みんなで楽しく安全に遊べるよう子ども達と共に考えあう（年齢に応じた知らせ方） ・保育士がいない時には近づかない ・プールの周りは滑って危険なことを伝え、走らないよう知らせる
痙攣 心臓麻痺	・準備体操をしっかりするよう、働きかけて手足を動かせるよう、指導していく ・身体に水をかけてから、入水するようにし、急に飛び込まないように注意し、知らせる ・休憩を入れる （目安として 約20分に1回位）	・準備運動、消毒の意味を知らせる ・入水する時、飛び込むと、どうなるか、身体との関係（心臓の影響など）も話し、水をかけてから入ることを知らせる ・休憩の必要性を知らせていく
虫さされ	・蜂に注意する（水場に来るため）	・騒がない ・保育士に知らせる
日射病 熱中症	・プールの周りに水をかける ・日かげをつくる	
火傷	・ホースを使う時、ホース内の水が熱くなっていないかを確認する	